

事業所名		Blossomジュニア 春日野教室		支援プログラム（放課後等デイサービス）		作成日		2025年		3月		5日	
法人（事業所）理念				えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるよるごび」				営業時間		9時00分から17時			
支援方針				・集団療育プログラムのほかに、個別療育プログラムを用意し、その日の「出来た！」を連絡帳で見える化（感覚統合・SST・知育・運動・ごっこ遊び等多岐にわたります。） ・他者のかかわりを重点に、コミュニケーション能力やルールを吸収する力を充実させます。 ・音楽や体操、絵本などの遊びを通して情操を豊かにします。 ・「サービス」ではなく「ホスピタリティ」でお子様へ寄り添います。				送迎実施の有無		○あり なし			
				ねらい						支援内容			
健康・生活				(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得						具体的な活動や支援内容			
				(a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、意思表示の困難であるお子さまの障害の特性及び発達過程・特性等と配慮し、小さなサインから身の異変に気づけるよう、さまざまな観察を行う。 (b) 健康の観察 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚事に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自励具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣服の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、ごまごまな遊びを通して学習できるように環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。						来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。始まる会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるように促します。 ・語り聞かせる際は、気持ちの絵カードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるように支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替えなど）の習得を支援し、教室の日に慣れ、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士が、姿勢や動作の改善に関するアドバイスをを行います。） ・水筒やお弁当、筆箱やプリント類をロッカーや所定の場所に入れるだけでなく、使用後の元の場所に戻すよう声掛けを行う。 ・ランドセルの中を確認し、プリント類が整理整頓されていない場合は一箱に連絡袋に片づけることを習慣化する。			
運動・感覚				(a) 姿勢と運動、動作の向上 (b) 姿勢と運動、動作の補助手段の活用 (c) 保持する感覚の統合的な活用						体幹などを通じて、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。けいこなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通じて、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。 色や形の異なるブロックや絵本などの教材を用いて、視覚的に理解する力の向上を促します。 様々な楽器や音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しみながら理解する力を促進します。			
				(a) 姿勢と運動、動作の基本的技能の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動、動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動、動作の補助手段の活用 姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等々の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体の運動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行器具や車いすによる移動など、日常生活に必要な運動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保持する感覚の活用 保持する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるように、遊び等を通して支援する。 (e) 感覚の統合及び代行手段の活用 保持する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。						・バランスストーンやトランポリン、バランスボールなどを使ってバランス感覚や体幹を鍛える。 ・姿勢保持が課題の児童には、足元にバランスクッションを置いて刺激を与えて姿勢保持に繋げたり、ボディイメージが課題の児童にはシールを衣服に貼ってつけられた箇所を探ったり、シールを動かすなどの活動を行う。 ・集団療育では制作を通じた視覚運動、しっぽ取りやボール投げを通じた粗大運動に取り組んでいる。			
本人支援				認知・行動						買い物や料理を通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教材を用いて視覚的に理解しやすい支援を行います。			
				(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色等の習得 数量、形の大小で、量、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏見等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。						・感情のコントロールができるように順番や交換、「貸して」と言葉で伝えられる手立てを構築する。 ・一つ一つ練習することで、「貸して」と伝えたら必ず貸し戻してもらう順番や少し待ちは順番が回ってくる環境の中で練習を行い、言葉で伝えるスキルや相手のタイミングに合わせて、先の見通しを立てて順番を待つなどのスキルの定着を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。			
言語 コミュニケーション				(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用						お子さまの興味や発達段階に合わせて、職員が意図を理解し応答しながら、遊びややりとりを通して人への関心を広げます。表情やジェスチャー、視線などを使ったコミュニケーションを支援し、表情にも見たり読んだりしなごうの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通じて楽しくことを学べる環境を提供し、日常会話や活動で新しいことばや概念を学ぶ機会をつくり出します。また、「貸して」「いっしょに遊ぼう」などのやりとりを練習する場を設け、職員が見本を示しながら支援します。 ・個別療育を通して様々な気持ちの理解や自分の気持ちの表出方法を職員と一緒に考える環境を作り、実生活で実践していく。 ・集団療育を通して他児と関わる楽しさを知り、適切な言葉遣いや相手に伝わる話し方を習得していく。			
				(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声等を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や書かれた文字、記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達障害のお子さまと、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機能の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。									
人間関係 社会性				(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加						事前に必要な手掛かりをばって丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるように支援します。少数での体験やゲームなどの活動を通して、社会性の向上を促します。またお子さまが自分や他人の感情を理解し、適切に表現できるように、職員がモデルを示します。 グループでの協力やコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。お友達との遊びの場面では、職員が関わりながら同じ遊びに興味を持たせ、人との交流を楽しむようサポートします。ごっこ遊びや共同遊びを通じて、社会性を育む機会を提供し、職員が遊びに参加し行動やことばのモデルを示します。 ・タイマーを使用して始まる時間、終わりの時間等の時間の意識を持つ。集団療育や個別療育などの一斉指示を通じて先を見越した行動を行い、相手の気持ちを尊重した言動を取ると共にその場面に応じた行動が出来るよう促し、習慣化する。			
家族支援				・個別療育や集団療育に行っていた活動の内容を送迎時（お迎え時）や、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有していきます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のプログラムや関わり方のフィードバックを行います。				移行支援		・必要に応じて学校に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子を他事業所や相談支援に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校（保育園・幼稚園）への送迎時、先生と学校（園）での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。			
地域支援・地域連携				・関係機関で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連絡会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に関して協議します。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面で役割わり方や、困りごとに対しての提案やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコーディネートの中核を担う事業所の開催する会議に参画し、情報共有を行います。				職員の質の向上		Blossomグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・専門職員によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染症対策研修 その他 児発指本ミーティングにて他教室との情報・意見交換実施			
主な行事等				・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動									